

## 平成26年度第1回 函館市観光アドバイザー会議 会議録

### ■ 開催概要

開催日時：平成26年6月27日（金） 18:00～19:00

開催場所：ロワジールホテル函館 3階会議室「瑠璃」

出席委員：奥平委員，畠山委員，内沢委員，尾山委員，金道委員，木村委員，佐藤委員，  
須田委員，渡邊委員

欠席委員：安井委員

函館市：観光部長，観光部次長，同観光振興課長，同コンベンション推進課長

### ■ 次第

- 1 開 会
- 2 委員紹介
- 3 座長選出
- 4 議 事
- 5 そ の 他
- 6 閉 会

### ■ 座長選出

（奥平座長）

私一人だけが前回のアドバイザー会議委員からの引き続きで残った形である。前回は、第4次観光基本計画の策定にも携わったが、やはり我々市民の目がこれからどんどん必要になってくる。また、今出ている様々な数値がどんどん変わってくるし、もう一つは、新幹線が来るということ、そして航空業界も激変していくので、こういった部分をどう観光の施策に活かしていくのか、というのが我々に課せられた一つの任務と考えている。

私の専門が地理学ということで、観光地等を歩きながら色々勉強しているところであるが、皆様方の知識・知恵を拝借しながら、よりよい函館の観光を目指していきたい。

### ■ 議 事

配付資料に基づき事務局より説明。

- (1) 函館市観光アドバイザー会議について
- (2) 函館市観光基本計画について
- (3) 函館市観光部の予算概要について

(奥平座長)

ただ今、事務局から説明があった。第1回目ということでわからないことも多いと思うが、委員の皆様から何か質問等はあるか。

(須田委員)

具体的に何をするのかピンとこないが、例えば計画策定の目的について、第3次計画の際には具体的にどのようなことがなされて、どのような効果があって、問題点としてはどういったことが残ったのか、わかれば教えて欲しい。

(事務局)

まず、昨年度までの第3次計画では、「観光文化」のあるまち・函館、を作ろうということで進めてきた。第3次計画の策定当初、函館への観光客の入り込み客数を10年後には650万人にすると計画していたが、実際には、過去最高の入込客数が平成10年度の539万人であり、東日本大震災の際には410万人というレベルにまで落ちてしまった。そうした中で、650万というのは現実的ではないということで、計画期間中に改めて550万という数字を目標に掲げたが、なかなか目標値に届かない。その理由は、私達の計画の進め方というものと、もう一つ大きなものが、長引く景気の低迷、国内人口の急速な減少が始まったことなど、計画策定当初には想定していなかった社会的要素が加わってきたことである。逆に、プラスの部分としては、インバウンド(※)が想定以上に増えてきた。平成10年度では函館に宿泊する外国人の数が1500人程度だったが、平成25年度には約30万人近くになり、約200倍に増えたというような劇的な変化があった。つまり、一方では満足する結果を得られ、もう一方では思い通りに行かなかったというような二つの要素があったということである。

そこで、今回の計画については、函館に来る観光客数の目標値を置くということも必要ではあるが、それ以上に観光による経済効果を求めていくべきということで、滞在期間を延長するような取り組みをしていくことを目標に設定した。また、人口減少時代の中で、新幹線の開業というのが今後10年間の中にあるわけだが、やはりリピーターを増やす必要があり、そのためにはホスピタリティを高め、満足度を向上させることが必要であるとして、今回の計画に掲げている。これらは前計画にはなかったものである。

本計画は始動してからまだ3ヶ月なので、具体的な政策は今後展開していくことになるのだが、観光自体が“流行”の性質も持ち合わせているので、委員にアドバイスをいただきながら、目標の実現に向けて、ますます函館観光が地域経済に良い影響を与えるように、本当の意味での基幹産業にしていきたい。

※インバウンド：外から入ってくる旅行、一般的に訪日外国人旅行を指す。

(畠山委員)

基本計画の本編の中身は拝見したが、過去の経緯について、次回の会議の際に、今までの計画に関する資料等があればいただきたい。

(奥平座長)

事務局で次回までに対応方をお願いする。

(渡邊委員)

予算の説明の中で、プロモーションとしてタイとインドネシアとの説明があったが、今年度はこの2カ国だけと考えてよいのか。

(事務局)

この項目は、新規の部分であり、インバウンドの対策はこれ以外にも行っているが、招へいという部分で今年度新たに取り組むものとして記載してある。その他これまでに引き続き、台湾や香港、韓国、シンガポールなどへの旅行博出展や、トップセールスも展開する予定である。

(渡邊委員)

予算の説明の中に、サイクルツーリズムとあるが、それは具体的にどのようなものか。

(事務局)

サイクルツーリズムは、近年富裕層に多く広がっているもので、自転車で100km、200kmという長い距離を、タイムに捕らわれることなく、自分のペースで走行するもので、特に北海道のような大自然に囲まれた地域は、信号機も少なく、適度なアップダウンもあり、雄大な景色を眺めながら、美味しいグルメやワイン等を堪能できる等、人気が高まっている。それを函館にも取り入れることができないか現在考案中である。

(渡邊委員)

それは函館単体で取り組むのか。

(事務局)

最近では、大沼を中心に道南地域がサイクルツーリズムに取り組もうとしており、また、青森県がサイクルツーリズムに強く取り組んでいることから、青函で勉強会を立ち上げ、双方向で取り組みをできないかと考えている。そういった中に函館市も参画していきたいと考えている。

(奥平座長)

補足だが、今回、私が携わる函館高専の公開講座の中で、まちあるき事業を市と共同で取り上げるということで、ワークショップをして市民の皆様と一緒にまちあるきのマップを作成し、翌日実際に歩いてみようという、市民が参加するイベントも企画していく予定。8月実施予定だが、この成果も見ながら、今後どのような方向性を出していくのか、これから考えていきたいと思う。

(奥平座長)

他に皆様から何かあるか。

(須田委員)

予算の中で、観光駐車場や建物関係の管理維持費の費用が思いのほか大きいようだが、観光客にどれだけ効果があるのか、あまりわからない。これだけの費用をかけているのだから、ただ駐車場がある、建物がある、というだけではなく、より有効な活用をしていく手段を考えて欲しいと思う。

(奥平座長)

意見として承りたい。

## ■ その他

(奥平座長)

本日配付したその他の資料について、事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

来函観光入込客数推計、観光アンケート調査の結果、観光客満足度調査の結果をお配りした。詳細については、後ほど各自で確認してほしい。

(奥平座長)

この結果については、後ほどじっくり見て、次回の会議等で活かしてほしい。

本日、黒船地域活性化協議会の尾山氏が出席しているので、その活動についてご説明いただけるか。

(尾山委員)

函館黒船地域活性化協議会の概要と、今年度のイベントについての説明。

(奥平座長)

委員の皆様も時間があれば足を運んでいただきたい。

他に今回出席されている団体から何かあるか。

(須田委員)

10年の計画というのは、長い気がする。短期的にみると、新幹線開業という近い目標もあるので、それに向けて何かやっていくということも、計画の方針の一つとして何か取り入れていただければと思う。

商工会議所青年部では、新幹線開業の年にフルマラソンを計画しており、市と相談しながら進めているが、是非そういったことにも力を貸していただきたい。経済面でも観光面でも効果があるものと考えている。

(奥平座長)

意見として承りたい。

それと、函館ロゴマークの缶バッジを委員の皆さんにいただければと思う。

(事務局)

本来であれば、皆様にお渡しして、今日から函館の観光のプロモーションをしてもらうべきであった。次回までには用意させていただく。

■ 閉 会